

日本カトリック正義と平和協議会  
平和のための脱核部会オンライン学習会  
この危機を、聖座にも知ってほしい！



# 2025年原爆投下80年に向けて 戦後の核被ばく問題

2024/11/27 (水) 19:00~20:45 (予定)  
第4回 オンライン学習会 on ZOOM

高橋博子さん (奈良大学)

2025年は戦後80年の節目を迎えます。8月には、日本のカトリック教会では、核廃絶に向け、さまざまな取り組みが企画されています。

80年の間、市民社会はさまざまな核兵器反対運動を繰り広げ、2017年にはICANが、そして今年24年は日本原水爆被害者団体協議会（被団協）が、ノーベル平和賞を受賞しました。しかし、冷戦期の核実験、劣化ウラン弾使用、原発による核ごみの生成、原発事故など、核の被害は絶えることがありませんでした。また、在外ヒバクシャの救済など、80年前の原爆投下には未解決のままの問題も残されています。

10月29日、東北電力女川原発が福島原発事故後初めて、東日本での再稼働に踏み切りました。ウクライナや中東では、核兵器使用の危険が戦後最高と言われるまで高まっています。軍事、エネルギー開発を横断する視線で、核の本質的な問題を捉え、次世代に地球を受け渡すために、私たちは何をすべきなのか、共に考えたいと思います。

お申し込み⇒<https://forms.gle/S5scwMhvRW4iZYhv7>



日本カトリック正義と平和協議会事務局  
03-5632-4444  
[jccjp@cbcj.catholic.jp](mailto:jccjp@cbcj.catholic.jp)